

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域		
連携中学校区：宮島中学校区		
連携地域を構成する学校		
学校名	学級数	児童生徒数
宮島小学校	7	89
宮島中学校	4	39
(R4.11.1現在で記入)		

## 1 研究の概要

### (1) 研究テーマ及び研究のねらい

宮島を誇りに思い、宮島の未来を創る児童生徒の育成～9年間のつながりを意識した持続可能な学習体系づくりを通して～生活科・総合的な学習の時間におけるカリキュラム構築を通して、宮島を誇りに思い、宮島の未来を創る児童生徒を育成するための探究的な学習となる単元開発及び指導方法を研究する。

### (2) 資質・能力の設定について

本校が目指す学園生像は、「宮島のことを系統的に学び、宮島の未来を考えるとともに、自分自身を見つめ自分の将来を具体的に考え行動する子ども」であり、育成したい資質・能力を次の3つに設定した。

おもてなし力 (知識及び技能)	宮島のことを地域の願いとともに深く理解し、伝えたい内容を構築していく
伝える力 (思考力・判断力・表現力等)	身に付けた知識・技能を活用し、相手や目的に応じて他者に伝えていく
見つめる力 (学びに向かう力・人間性等)	学習を通して自分と社会のつながりに気づき自己理解や将来への展望をもつ

これら3つの力を発達段階に応じた系統を明らかにした上で、単元に落とし込んでルーブリックを作成し見取っていく。

### (3) 取組について

#### 【本年度の研究の重点】

#### ① 9年間の系統立てたカリキュラムの構築

生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムを、宮島を材としてSDGsの行動目標で系統を示す「宮島学習」と探究課題がキャリア教育に関する「生き方・あり方学習」で構成することとし、単元を表1のように整理した。

表1 生活科・総合的な学習の時間 単元の系統表

単元	宮島学習 今ある誇りを「守り・継承すべき」学びと体験 心豊かな暮らしを育む創造		生き方・あり方学習 生き方・あり方の 探究と創造
	探究的学習	総合的な学習の時間	キャリア教育
1 夢っころいすま	いそものむかし なつゆやてま たのいしあま 「うまそう」のあま みだりにいすま		もうすぐ2年生
2 たんけん ぱんけん 大ぎぎき	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう		あしたへジャンプ
3 宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	10才の裏で アップグレードしよう
4 宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう
5 宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう
6 宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう
7 宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう
8 宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう
9 宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう	宮島の行事を伝える やまのいすま 宮島をまつけよう 宮島のくらしのよさを伝えるよう

#### ② 地域資源を活かした単元開発

- ・地域へ出かけ、見る、聞く、体験する活動の充実
- ・双方向の発信の場を設定した単元展開の工夫
- ・多様な見方に触れる専門家や地域の人と対話

#### ③ 振り返り・課題設定を大切にしたい学び

- ・ルーブリックの共有と振り返りシートの工夫
- ・個人の振り返りを集団で共有し課題設定に活用
- ・振り返りから次の見通しをもたせる時間の設定

## 2 実践事例

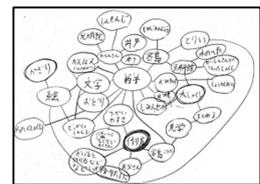
研究の重点を踏まえた単元開発について2つの実践を紹介する。

### 宮島小学校第4学年「宮島杓子のすばらしさを伝え隊」

【単元の目標】 宮島の伝統工芸品である杓子づくりを取材し、そのよさや課題を整理する活動を通して、宮島で受け継がれてきた杓子のよさに気づき、地域の発展を願ってその思いや地域のよさを伝えるために、自分たちができることを考え、進んで地域社会に関わって行動しようとする。

#### ・社会科「郷土の発展につくした人々」と関連させた課題設定

宮島の恩人といわれる誓真僧侶の功績を学ぶなかで、その一つである杓子を考案し製造を広めたことに着目し課題を設定した。運動会で披露する杓子踊りを始め、身近に杓子を見る機会が多く児童が関心をもちやすい。



児童の「杓子イメージマップ」

#### ・探究意欲を高める驚きの事実の提示

近くの小学校児童を対象に行ったアンケート「宮島で有名なものといえば？」で杓子という回答は少数であった。また、宮島杓子を集めたTV番組の視聴から「最盛期は100人を超える職人がいたが今は3人が島の伝統品を守っている」と知った。これらの事実に出会い、自分たちのもつ宮島杓子の理解との違いに気づき、児童は「杓子のことを伝えたい。」という思いを高め、杓子のよさだけでなく課題にも目を向けることができた。

#### ・新聞監修として地域の人と意見交流の場を設定

新聞を地域に掲示する

前に、取材先の方や地域の人・保護者を招いて報告会を行った。そこで、新聞をよりよくするためのアドバイスを得たり、再取材の依頼を受けたりした。また、

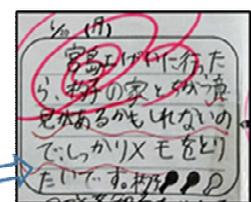


報告会の様子

児童は、自分たちが作成した新聞を題材に地域の人が真剣に語り合う姿を目の当たりにし、社会とのつながり・地域の人と学ぶよさを実感することができた。さらに、地域の方との応答の中で児童は「伝統を守るために何ができるだろう。」と考えを深めていった。

#### ・ルーブリックを共有した振り返りの蓄積

めあてについてルーブリックをもとに自己評価を行い、1枚ポートフォリオに蓄積した。児童は振り返りから次の課題を見つめたり自分の学びの変容を自覚したりすることができた。



児童の1枚ポートフォリオ

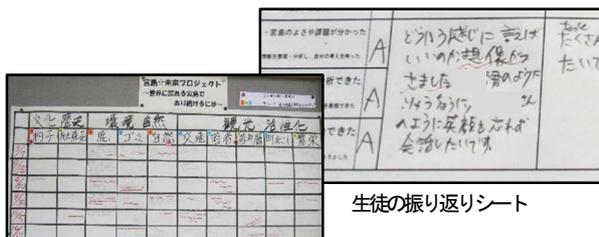
### 宮島中学校第3学年「宮島☆未来プロジェクト」

【単元目標】 これまでの宮島学習を基盤に、「自然・文化・歴史の息づくしま」である宮島の現状から課題を設定し、解決に向けて取り組む活動を通して、地域を発展させるための地域の人々の様々な取組に気づき、宮島のよさや課題と自分たちの生活とのかかわりを理解し、10年先を見つめた宮島の在り方と自分の将来を結び付けて考えるとともに、学んだことを活かしながら宮島の活性化のために自分たちにできることを考え行動しようとする。

- ・小学校1年生からの学びを基にした課題設定  
小学校1年生からの宮島学習で学んだことや考えたことを基に課題探究のテーマを一人一人決める。

《生徒が立てたテーマの例》  
 「宮島からゴミを減らすにはどうしたらよいか」  
 「町の人の生活をよりよくするにはどうしたらよいか」  
 「若者に通用する宮島の魅力とはなんだろうか」

- ・振り返りシートの工夫  
個人の進捗状況と振り返りがわかる掲示物で、互いの活動を知ることで、関わり合いが注ぎるようにした。個人の振り返りはファイルに綴じていき、教員はコメントを記入する。



個人の進捗状況や振り返りを掲示

- ・地域の人へのインタビューを通して得た新たな視点  
自分なりの考えを地域の方へ聞いてもらい、意見をもらってさらに考える。「若者に通用する宮島の魅力とはなんだろうか」をテーマにした生徒は、若者受けするお店がたくさんできるとよいと考えたが、「わざわざ宮島に来てどこにでもあるお店に行きたいと思いませんか?」という地域の方の言葉に「宮島らしさ」について考えるようになり、「自分らしく生きるとはどういうことだろうか」など自分の将来に結び付けて考えることにつながった。
- ・2年生や地域の人と意見交流の場を設定  
小中一貫教育小規模校全国サミットで他県の先生方へ、また2年生との交流会や地域の方への発表会を通して自分の考えを伝え、意見をもらうことでさらに考え、「見えないゴール」「答えのないゴール」へ進んでいくことができた。



地域を案内しながら自分の課題探究を説明

### 3 研究の成果と課題等

今年度の学校評価アンケートから、付けたい資質・能力に関する項目への回答結果は次のとおりである。

#### (1) 成果

【児童生徒】				
①(授業では)自分が伝えたいことを筋道立てて伝える力がついたと思います。				
	(%)			
	あてはまる	ややあてはまる	あまり	全く
7月	27.4	48.7	22.2	1.7
2月	19.4	53.4	25.3	1.9
変化	肯定的回答76.1→72.8		否定的回答23.9→27.2	
②授業の「ふりかえり」を通して、次にやりたいことを見つけています。				
	(%)			
	あてはまる	ややあてはまる	あまり	全く
7月	28.5	42.2	25.0	4.3
2月	20.4	51.5	24.3	3.8
変化	肯定的回答70.7→71.9		否定的回答29.3→28.1	
③生活科・総合的な学習の時間で学んだ宮島のことを他の人にも紹介したいと思います。				
	(%)			
	あてはまる	ややあてはまる	あまり	全く
7月	52.1	35.9	9.4	2.6
2月	48.5	45.6	4.9	1.0
変化	肯定的回答88.0→94.1		否定的回答12.0→5.9	
【教員】				
	肯定的回答 (%)		7月	2月
授業で伝える力を育成する工夫をしている。			85.0	85.7
授業では新たな課題発見につながるような振り返りをしている。			75.0	76.2

①②から概ね7割の児童生徒は「伝える力」「主体性」の高まりを自覚している。③から9割の児童生徒が「おもてなし力」の高まりを自覚し、否定的回答が半減した。これらは、各学年で地域資源を活かした単元開発や振り返りの工夫に取り組んだ成果といえる。

また、振り返りシートには、児童生徒が課題への見方を深めたり自身の生き方を考えたりした証が増えた。これは、地域の人と協働したことで多様な見方ができるようになった成果である。

#### (2) 課題

指導者が振り返りの質を高めようと、振り返りシートを工夫し設問を変えていくことで、児童生徒が振り返りから次の課題を見つけて解決しようとする姿が(児童の1枚ポートフォリオのように)見られるようになった。しかし、児童生徒が自覚するまでには至っていない。

#### (3) 今後の改善方策等

活動中の児童生徒の見取りの難しさを感じる。そのため資質・能力が身に付いた児童生徒の姿をいくつも具体的に想定しルーブリックの妥当性・客観性を高め、指導と評価の一体化をめざす。また、自己評価だけでなく、相互評価やゲストティーチャーからの評価も取り入れるなど振り返りシートを工夫していく。

今後も、児童生徒の資質・能力を育むために、指導者が地域の実態を知り、地域の課題や思いや願いを知った上で、児童生徒とともに探究しながら地域資源を活かした単元開発に取り組んでいく。